

2018年 東京外国語大学（前期日程）【英語】解答速報

2018年2月25日施行

1 長文論述問題

1.

【解答例1】我々が様々な人間関係を処理する強力な脳を持つに至ったのは単に都合のいい偶然の産物ではないということ。(50字)

【解答例2】我々が複雑な人間関係を処理する脳を持つのは、そのような関係を形成したがゆえの必然的結果かもしれない。(50字)

【解答例3】我々が強力な脳を持つことは偶然ではなく、複雑な社会関係を形成したことの結果であり得る、ということ。(49字)

2.

【解答例1】遺伝子を残していくという本能を越えて血のつながりのない他者にまで配慮すること。(39字)

【解答例2】直接的血縁関係にない他人や、時に他の動物種の幸福についてさえも関心を持つこと。(39字)

【解答例3】人間が、遺伝子上つながったものを本能的に保護することを越え、他者に配慮すること。(40字)

3.

【解答例 1】自分は退屈だと思ったが友人たちが気に入った映画の素晴らしさを何時間も語り合う場合のように、一度形成した意見がグループの異なる意見によって強く影響を受けること。(79字)

【解答例2】自分が退屈だと思ったが仲間は気に入った映画の良さについて何時間も語り合う場合のように、形成した結論や意見を自分が所属する集団に合わないという理由で放棄すること。(80字)

【解答例 3】自分が大嫌いなバンドを「イケてる」やつらが好きだという理由で好きだと主張するように、何かについての自己の意見を一体感を持つ集団が同意しないがゆえに捨て去ること。(80字)

4.

【解答例 1】グループ内で一人のみが真の被験者で残りは意図的に間違えるよう指示された協力者である状況で、例えば三本の線から最短のものを選ばせた結果、最後に答える真の被験者の75%は他者と同様の間違った答えを述べた。(99字)

【解答例 2】一名のみが本当の被験者であとは実験協力者である集団に対し、例えば「三つの内どの線が一番長いか」と質問をする。事情を知らない一名以外が全員誤った回答をすると、大方その一名も全体に同調し誤った回答をした。(100字)

【解答例 3】被験者集団に、たとえば「一番長い線はどれか」といった質問をする。その際、一人の真の被験者を除く全員に誤った答をするよう指示しておく。最後にその被験者に答を求めたところ、75%の割合で誤った答を出した。(99字)

5.

【解答例1】個人の生い立ちや性格がしばしばグループ内での承認欲求と同程度の影響力をもつから。(40字)

【解答例2】自己自身の経験や個性による影響が大きい上、集団の構成員は、多様な個人であるから。(40字)

【解答例3】個々の育ちや人格が同様に影響を持ち、集団はそうした様々な個で構成されているため。(40字)

6.

【解答例1】不確かなことを理解する際、他者の発言が十分な証拠とされて説得力を持ち得ること。(39字)

【解答例2】状況把握のため、たとえ間違っても信頼できる情報源として、脳が他者を使うこと。(40字)

【解答例 3】正確な情報が得にくい場合に伝聞などがもっともらしい証拠として扱われること。(37字)

2 長文空所(単語)補充(語形変化あり)

- ① regarded ② invaded ③ marching ④ recognise ⑤ celebrate
⑥ formed ⑦ hire ⑧ vowed ⑨ giving ⑩ comes

3 長文空所(欠文)補充

- ①B ②D ③I ④C ⑤E ⑥H ⑦F ⑧G

4 リスニング：省略 作文：省略

5 リスニング：省略

6 リスニング＋英 作文：省略

《講評》

全体として、昨年度の出題形式・傾向から大きく変わったところはありません。読解部分では、大問1が、内容説明(論述)問題の長文読解、大問2は、単語レベルの空所補充問題、大問3は、センテンス(またはその一部)の欠如を補う空所補充問題です。

1の内容説明問題は、小問が昨年度に続き6問で、難度や形式においても大きな変化はありませんでした。昨年度同様に、大学受験レベルの語彙・構文・文法がしっかり身につけていけば論

旨展開を追いながら読むことは困難ではない文章です。また、比較的狭い文脈の範囲(問われた下線部の前後)に解答の根拠が見つかる問題が中心でした。パッセージ全体のテーマ、段落の論旨展開、そして段落内の前後の文脈をしっかりと理解しながら読むことの重要性は例年通りです。さらに、理解した内容を字数制限内での確な日本語で表現する能力が問われています。英語の学習に加えて、伝えたい内容を過不足のない、分かり易い日本語で表現する訓練が有効な対策となります。

②の空所補充は、11語の単語群から10カ所の空所を補充する問題です。単語群が大学入試としてはすべて基本的な動詞である点、「必要があれば適切な形に変えて…」という指示がある点、ともに例年通りです。難易度も昨年から大きな変化はありませんでした。語形変化の可能性があり、正確な文法的判断が必要な点が難度を上げている要素です。ただし、本年度も含め近年の語形変化のパターンは、①「動詞を現在分詞、過去分詞、あるいは動名詞に変える」、②「動詞の時制を変化させる」、③「動詞に三人称単数現在のSをつける」、というものに集中しています。この出題パターンを絶対視するのは危険ですが、これらを重点的に学習することは非常に有効な対策となる可能性が高いでしょう。

③の欠文補充は、9個の選択肢から8カ所の欠如箇所を埋める問題で、これも例年通りです。主に語彙・語法の知識を活用する大問②に比べて、③はより正確な文脈の把握が必要といえます。そのため例年いくつか迷う選択肢がありますが、一度選んだ選択肢を固定化せず、問題を解き進む過程で試行錯誤しながら最適なものに変えていく柔軟性が必要です。冷静かつ論理的にしっかりと文脈を追うことを心掛ければ、解答の根拠を必ず見つけることができます。解答後にパッセージ全体に目を通して、論理的かつ自然な文章の流れになっているかどうかをチェックすることが正解率を高めるのに重要です。

④と⑤は例年通りリスニング問題です。昨年度、④がマルチプルチョイスではなくメモの空欄を埋める語や数字を書かせる問題でしたが、今年度は例年通りマルチプルチョイス問題に戻っていません。

⑥は6年連続で「リスニングと英作文の融合問題」となりましたので、この形式が定着したといえます。放送を2回聞いて、1)参考となる資料(メモ書き)を見ながら内容の要約を英語で書く問題、2)放送内容に関する質問に対して自分の意見を英語で書く問題、の2つが出題されるパターンも例年通りでした。書くことに使える時間は50分前後だと思われます。それぞれ200語程度(計400語程度)が求められますので、リスニング力の強化とともに一定の時間内にこの語数を書くための十分な準備が必要です。短期間での対策は困難で、中長期的・日常的な対策が望まれます。

トフルゼミナール

トフルゼミナール 解答速報

Page 4 of 4